

平成26年度北九州市道徳教育推進事業報告書

学 校 名	北 九 州 市 立 浅 川 中 学 校		
住 所	〒807-0871 北九州市八幡西区浅川学園台2丁目4番1号		
電 話 番 号	(093) 601 - 9323	F A X	(093) 601 - 3498
校 長 名	丸 山 誠 吾	教員数	5 2

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別支援学級	合 計
学 級 数	9	7	7				5	2 8
児童生徒数	3 1 2	2 6 5	2 5 7				3 1	8 6 5

1 研究主題

『あたたかな人間関係づくりを目指す道徳の指導の工夫』

2 本年度の研究の概要

8年前に道徳教育の指定を受け「命を実感し自分の生き方を求める生徒を育成する道徳教育の推進」をテーマに全校で取り組み、実践発表を行って以来、道徳教育を充実させるべく取組みを続けている。本年度は、上記の『あたたかな人間関係づくりを目指す道徳の指導の工夫』をテーマに取り組んだ。道徳教材にあたっては、各学年の生徒の実態に合わせ、「私たちの道徳」「心のノート」「北九州道徳郷土資料」等を活用しながら学校の教育活動全体を通して展開した。

また、生徒へのアンケート調査を実施し、その効果を検証しながら指導に生かしながら、道徳の指導に当たった。

3 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

《子どもの変容》

①意識調査より

- ・「相手の気持ちを思いやることができるようになった」という質問に対する結果は、9月よりも12月と友達や周りに対する「思いやりの心」が育まれている。
- ・「以前より、あいさつが進んでできるようになった」という質問に対する結果は、「当てはまる」と答えた生徒が12パーセント増えており、少しずつ成果が出ている。

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対する結果からは、自分のよさを認められる生徒が少しずつ増えている。
- ・「学校のきまりを守っていますか」という質問に対して、9月では、「当てはまる」と答えた生徒が64%、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が34%であったが、12月では79%の生徒が「当てはまる」と答え、「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が19%となり、子ども達の規則を守ろうとする意識がより高まっている。
- ・「住んでいる地域や北九州市のよさを見付け、大切にしていこうと思いますか」という質問に対する結果からは、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」という数値が10パーセント伸びるなど、住んでいる地域や北九州市のよさを見つけ、大切にしていこうとする生徒が増えている。

上記の意識調査の結果からも分かるように、「思いやりの心」「規範意識」「地域を愛する心」など子どもたちの意識が9月よりも12月と変化しており、道徳教育の研究の成果が少しずつでている。

②学校生活より

- ・友達に優しい声かけをするなど、周りに思いやりをもって接する生徒が増えている。
- ・服装はもちろん、基本的な生活習慣を見ても、学校のきまりを守ってきちんとした生活態度で学校生活を送っている生徒がほとんどである。
- ・地域のボランティア活動に積極的に参加している生徒が増えている。(餅つき大会など)
- ・委員会活動や係活動、清掃活動など誠意と責任をもって行う生徒が増えている。
- ・道徳の授業の終末で書いた感想文に、家族や周りに対する感謝の気持ちを書いている生徒が増えている。

《教師の意識の高まり》

- ・教師の意識調査より、魅力的な教材の開発と活用を行った教師が9月よりも12月と増えており、子どもの心の育ちを意識した魅力的な教材づくりに取り組んでいる教師が増えている。
- ・意識調査より、発問の工夫や話し合い活動の工夫など指導の充実が図られている。
- ・食育やパパママ体験学習、校外学習との関連を図った指導が多く取り入れられ、地域との連携や社会の一員としてのルールやマナーについて考えさせる指導が行えた。
- ・学級通信で道徳の授業の感想を紹介している学級もあり、道徳教育の発信に努めている教師もいる。

- ・ホームページでも、授業の様子や指導案を紹介している。
- ・学校開放週間中に、道徳の授業を一斉公開し、子どもの取り組みの様子を見ていただいた。

《道徳の授業の充実》

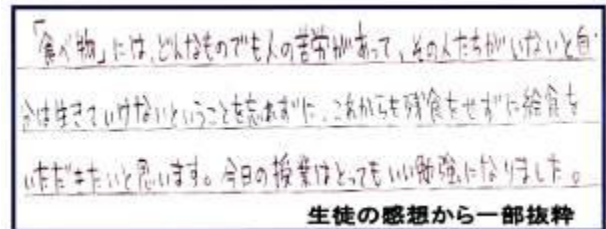
- ・年間指導計画や全体計画等の充実が図られているので、教科や特別活動、総合の時間と関連させた指導ができた。1学年では、「パパママ体験学習」、2学年では「食育」、3学年では「人権学習」と関連させた授業を行った。

「パパママ体験学習」においては、命の誕生と成長についてDVDを使い事前学習を行い、道徳資料「きみが生まれた日」と「あなたはすごい力で生まれてきた」を学習し、その後妊婦スーツを着用して妊婦体験学習を行った。

道徳の授業においては、自分の名前や生まれた時の様子を家族にインタビューする場面もあり、これまで育ててくれた親に対する感謝の気持ちの高まりが感想に多く見られた。妊婦体験においては、妊婦の大変さや苦労をなど妊娠中の実情を体験することで、命の大切さなども感じ取っており、命の尊厳への認識を深めることができた。この取り組みの中で、男性職員がゲストティーチャーとして育児について話したことは大きな成果につながった。子どもたちの表情も大変良かった。



「食育」においては、秋の農業体験に向けた取り組みとして道徳の授業（食に関わる人たちの仕事について）を実施した。授業では、給食調理士さんの仕事や、生産者の方へのインタビューを視聴し、給食に携わる人の苦労や思いなどについて栄養教諭から説明をうけ、絵本「いのちをいただく」を使って授業を行った。第2学年は、学校でも残食の少ない学年である。感謝の心につながっていると思われる。また、自分たちが食べ物を口にするためには、たくさんの命と携わっている方々の思いが詰まっていることを感じ取ることができた学習ができ、子どもたちの気持ちにも大きな変化が見られた。農泊体験も充実したものとなった。



(研究の課題)

- ・道徳の時間の指導の充実を図ると共に、日常の生活を含む教育活動を通して道徳教育を充実させる。
- ・地域のゲストティーチャーの活用を増やす。
- ・道徳の授業を公開したり、授業の様子を保護者や地域に発信していく。
- ・よりよい生き方につながる道徳教育をめざし、道徳資料の選定、発問の工夫、話し合い活動を取り入れる工夫などを行い充実した道徳の授業を展開したい。